

広島大学

# 日本語教育研究

第 27 号

広島大学大学院教育学研究科  
日本語教育学講座

2017

# 「広島大学日本語教育研究」投稿規定

## 1. 刊行の目的

広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座所属の教員等の研究成果の発表に資する。

## 2. 名 称

『広島大学日本語教育研究』〈英文名：Bulletin of the Department of Teaching Japanese as a Second Language, Hiroshima University〉とする。

## 3. 投稿資格・投稿内容等

- (1) 投稿資格を持つ者は、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座の教員（非常勤を含む）、大学院生、大学院修了生、前年度まで在職の教員等とする。現専任教員との共著に限り、学部卒業生・学部生・研究生・研修生、及び講座の承認を得た者も投稿できる。
- (2) 投稿できるのは、研究論文・研究報告・実践記録・講演原稿・資料等とする。
- (3) 講座彙報・書評等を掲載する。ただし書評については、投稿があった場合は書評の欄を設けて掲載する。投稿がない場合には欄を設けない。
- (4) 投稿できる論文数は、2編（個人研究1編・共同研究1編、または共同研究2編）までとする。なお、書評はその数に含めない。

## 4. 編集等

- (1) 講座内に紀要編集委員を置き、2名の編集委員で構成する。
- (2) 本紀要は年1回刊行する。
- (3) 執筆者校正は2校までとし、本人の責任校正とする。

## 5. 原稿執筆要領

- (1) 個人研究・共同研究ともに、400字詰め原稿用紙40枚以内とする。ワープロを使用する場合は、横書きは23字×45行×2段、縦書きは34字×31行×2段をそれぞれ1頁として、8頁以内とする。図表等もこの制限内に収めること。
- (2) 原稿は完全原稿とする。1頁目のはじめに論文題目、執筆者名、英文題目、執筆者名（ローマ字）を段組をせずに記すこと。必要に応じてキーワード5語以内を付すことができる。注及び引用文献は論文末に一括して掲げること。
- (3) 11月30日の最終原稿提出時に、250語以内の英文要旨を提出すること。
- (4) 教員の投稿締切は毎年11月30日とし、紀要編集委員に午後5時迄に提出する。大学院生、大学院修了生のみで執筆する場合は審査を行うため10月31日（午後5時）を投稿締切とし、最終稿は11月30日（午後5時）を締切とする。ただし、締切が土曜日または日曜日の場合、その直前の金曜日を締切に替える。締切厳守のこと。
- (5) 提出原稿は返却しない。大学院生、大学院修了生のみで執筆する場合はハードコピー（プリントアウトした原稿）を3部提出すること。
- (6) 原稿提出の際には、ハードコピー（プリントアウトした原稿）を講座事務室宛に提出するとともに、添付ファイルで nihongo@hiroshima-u.ac.jp の講座アドレス宛に送付すること。
- (7) 原稿提出は、ワードまたは一太郎ファイル、及びPDF変換したもの、各1部を提出すること。件名には「講座紀要応募原稿」と氏名を明記すること。
- (8) ハードコピー（プリントアウトした原稿）と添付ファイルの両方が、締切期限までに提出されたものについて応募を認めることとする。

## 6. 大学院生の投稿の審査等

- (1) 大学院生のみで執筆の場合は主任指導教員が主査となり、2名の副査と審査を行った後、講座の了承を得るものとする。
- (2) 教員と共著の場合は、当該教員の責任において採否を決定する。

## 7. 大学院修了生の投稿規定

本講座の大学院博士課程前期・後期課程を修了した者の投稿を以下の条件において認める。

- (1) 元指導教員または近接関連領域の教員（関連分野の教員がいない場合は外部に審査員を依頼）が主査となり、2名の副査と審査を行なった後、講座の了承を得るものとする。
- (2) 各号あたりの修了生の論文掲載枠を3編までとし、投稿が多数の場合は、編集委員と審査員で協議し、上位3編を選び、掲載を認める。
- (3) 投稿手続き及び締切等については大学院生の投稿規定に準じる。
- (4) 教員との共著の場合は、当該教員の責任において採否を決定する。

## 8. 著作権

- (1) 『広島大学日本語教育研究』に投稿された論文の著作権は、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座に属する。
- (2) 著作者が自らの著作物を利用する時は、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座として何ら制限しない。
- (3) 広島大学全学の方針に基づき、平成24年度以降、本誌の内容を広島大学学術情報リポジトリに登録することとする。（登録を希望しない場合は投稿時に申し出ること。）

※平成10年11月4日、平成13年7月5日、平成14年10月24日、平成22年7月22日、平成25年4月10日、平成27年3月4日一部改正

## 目 次

### 論文：

#### 『門』の文体

##### — 漱石が文体を変化させた意図と方法 —

…………… 柳 澤 浩 哉・李 在 鉉…………… 1

#### 韓日対訳シナリオ集から見た日本語と韓国語のアスペクト形式の対応関係

##### — 「-テイル」形とそれに対応する韓国語の形式を中心に —

…………… 李 在 鉉・白 川 博 之…………… 11

#### 中国人上級日本語学習者における日本語漢字単語の語彙表象と概念表象の連合関係

##### — 線画-単語ストロープ命名課題を用いた検討 —

…………… 徐 婕・費 曉 東・松 見 法 男…………… 21

#### 一般化可能性理論を用いた外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント

##### DLA <話す>の検討

…………… 森 重 里 保・渡 部 倫 子…………… 31

#### 日本語漢字単語とベトナム語漢越音における音韻類似性調査

…………… 長 野 真 澄…………… 35

英文要旨…………… 43

### 彙報

平成28年度広島大学日本語教育学研究会発表要旨…………… 47

講座歳時記…………… 49

講座教員名簿…………… 50

2016年度（平成28年度）論文題目一覧…………… 51

お祝いの言葉…………… 白川博之（日本語教育学講座主任）…………… 54

倉地 曉美教授 略歴・業績…………… 56

中村 春作教授 略歴・業績…………… 59

執筆者紹介…………… 62

編集後記…………… 63

# CONTENTS

## Articles:

### The Style of “Mon”

- The Intention and Method of Soseki’s Continuously Changing Stylistic Style —  
 ..... Hiroya YANAGISAWA, Jaehyeon LEE··· 1

### Correspondence between Japanese and Korean Grammatical Aspect Forms as Seen through the Korean-Japanese Parallel Translation Scenario Collection

- ..... Jaehyeon LEE, Hiroyuki SHIRAKAWA··· 11

### Associative Relationship between Lexical and Conceptual Representations in Chinese Proficient Learners of Japanese Language

- An Experimental Study Using Picture-word Stroop Naming Task —  
 ..... Jie XU, Xiao-dong FEL, Norio MATSUMI··· 21

### Utilizing Generalizability Theory in the Evaluation of Dialogic Language Assessment

- ..... Riho MORISHIGE, Tomoko WATANABE··· 31

### A Survey of Phonological Similarity between Japanese Kanji-Words and Vietnamese Han-Viet sounds

- ..... Masumi NAGANO··· 35

## Abstracts ..... 43

## Collection of Reports:

### Summaries of Presentation at the Meeting of Hiroshima University

- Teaching Japanese as a Second Language Association 2016 ..... 47

### Events ..... 49

### Academic and Administrative Staff ..... 50

### List of Ph. D. Dissertations / Master’s Theses / Graduation Theses ..... 51

### Farewell Message ..... Hiroyuki SHIRAKAWA··· 54

### Academic Career and Publication of Professor Akemi KURACHI ..... 56

### Academic Career and Publication of Professor Shunsaku NAKAMURA ..... 59

### Authors ..... 62

### The Editor’s Postscript ..... 63

平成29年 3 月25日 印刷

平成29年 3 月25日 発行

**広島大学日本語教育研究 第27号**  
**Bulletin of the Department of**  
**Teaching Japanese as a Second Language,**  
**Hiroshima University**

**No. 27**

編 集 広島大学大学院教育学研究科  
日本語教育学講座紀要編集委員会

発 行 所 広島大学大学院教育学研究科  
日 本 語 教 育 学 講 座

〒739-8524 東広島市鏡山 1 丁目 1 番 1 号

Tel. (082) 424-6880

Fax. (082) 424-5245

印 刷 所 株式会社ニシキプリント

〒733-0833 広島市西区商工センター 7 丁目5番33号

Tel. (082) 277-6954

Fax. (082) 278-6954

Bulletin  
of  
the Department of Teaching Japanese  
as a Second Language,  
Hiroshima University

(Hiroshima Daigaku Nihongo Kyôiku Kenkyû)

No. 27

2017

Department of Teaching Japanese as a Second Language  
Graduate School of Education, Hiroshima University